

機関番号：24403

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19592456

研究課題名 (和文) メタ認知の発達を支援する臨床学習環境のデザインに関する研究

研究課題名 (英文) The design of clinical learning environments that support the development of metacognition

研究代表者 細田 泰子 (HOSODA YASUKO)

大阪府立大学・看護学部・准教授

研究者番号：00259194

研究成果の概要 (和文)：メタ認知の発達を支援する臨床学習環境のデザインに焦点をあて、学生、教員、実習指導者における臨床学習環境、メタ認知、看護実践力の因果構造を示し、教育/コーチング、仕事役割のナースコンピテンスが臨床学習環境に影響することを明らかにした。さらに臨床学習環境のステークホルダーの状況認知、思考過程、看護実践におけるメタ認知的活動のテーマを抽出し、臨床教育に資する形成的評価のシステムの指針を示すことができた。

研究成果の概要 (英文)：

Focusing on the design of clinical learning environments that support the development of metacognition, we clarified the causal structure of clinical learning environment, metacognition, and practical nursing skills in students, faculty members, and clinical instructors. The findings demonstrated that teaching/coaching and work role categories of nurse competence affect the clinical learning environment. In addition, themes of metacognitive activities in situated cognition, thought processes, and nursing practice of stakeholders in the clinical learning environment were identified, and guidelines for a system of formative assessment that contributes to clinical education were established.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	800,000	240,000	1,040,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：看護教育学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：臨床学習環境 メタ認知 教育デザイン 看護実践能力 看護学実習 教育評価 クリティカルシンキング 社会システム

1. 研究開始当初の背景

近年の急速に変化する医療環境下において臨床教育の方法を再検討し、学生の看護実践能力の育成に向けた取り組みが課題となっている。看護学実習における臨床学習環境は社会的実践と結びついた世界であり、そこで学習する知識は看護実践が行われている状況との関係性のなかで意味を持つてくる

と考えられる。一般に、臨床学習環境は学生の臨床経験の質を決定するための重要な要因であるとみなされている。近年の学習環境論においては、学習者自身が学習過程を吟味することの重要性が議論されている。学習過程の認知的な観点から、体験学習理論と実践の認識論を基盤にして Clinical Learning Environment Diagnostic Inventory (CLEDI)を開

発した(Hosoda, 2006)。CLEDIは臨床学習環境の感覚的、知覚的、象徴的、行動的、反省的側面を測定することができる。

本研究では、臨床学習環境という概念にメタ認知の観点を取り入れている。メタ認知とは、認知的プロセスや所産に関して能動的なモニタリングとその調整、それらのプロセスの組織化を意味する(Flavell, 1976)。臨床学習環境には、医療・看護システム、教育・研究システム、情報・管理システム、実践・協働システムが関わり、それらが学習をコントロールするという状況が生じると考えられる。しかしながら、これらのシステムと臨床学習環境との関連を明らかにした研究は見られない。また看護学教育における評価は、インプットとしてカリキュラムの評価、アウトプットとして看護実践能力の評価が求められているが、プロセスとして学生のメタ認知を高めるための教育・学習活動のあり方を探究する必要がある。臨床学習環境の質の向上に資するためにどのような形成的評価のシステムを取り入れるべきかという課題がある。

2. 研究の目的

本研究では、臨床学習環境と医療・看護システム、教育・研究システム、情報・管理システム、実践・協働システムに含まれる要素との因果関係を明らかにし、その知見をもとに臨床教育のためのインストラクショナルデザインに資する形成的評価システムの開発、メタ認知の発達を支援する臨床学習環境のデザインを探究する。

3. 研究の方法

(1) 学生・教員・実習指導者における臨床学習環境に関する調査

臨床学習環境のアセスメント指標として、CLEDIの活用可能性を検証し、関連する要因間の因果構造を検討するため、大学生(4年次)476名、専門学校生(3年次)366名、大学教員216名、専門学校教員195名、実習指導者330名を対象に、CLEDI、クリティカルシンキングの態度や傾向(Zechmeister et al, 1992, 宮元ら, 1996)、看護師の感情労働測定尺度(片山ら, 2005)、より豊かな学びに結びつく臨床学習環境の自由記述、臨床学習におけるメタ認知(学生のみ)、学生のメタ認知の促進への支援(教員と実習指導者のみ)、看護実践力尺度(細田ら, 2007)(学生と実習指導者のみ)、基本属性を含めた質問紙調査を実施した(留置法、郵送法)。収集した定量的データは、記述統計、検定、相関分析、多変量解析、共分散構造分析を行い、有意水準は5%とした。定性的データは、質的記述的分析を行った。

(2) ナースコンピテンスと臨床学習環境に関する調査

臨床の社会システムに含まれる要素として、Benner(1984)が示した7領域:援助役割、教育/コーチング、診断機能、状況管理、治療的介入、質の保証、仕事役割からなるNurse Competence Scale(NCS)(Meretoja et al, 2004)を用いるため、英語版NCSを日本語に翻訳し、尺度の開発者Meretojaに協力を依頼し、すべての項目においてオリジナルと日本語版(逆翻訳)の意味が一致するまで翻訳を洗練する作業を繰り返し、翻訳妥当性を確認した。

日本語版NCSの内容関連妥当性を検討するため、看護実践の経験10年以上の看護職11名をエキスパートとしてNCSの構成概念と各項目の関連性を問う調査を行い、percent agreementとcontent validity index(CVI)を算出した。

日本語版NCSの内的整合性と併存的妥当性を検討するため、経験年数3年以上の臨床看護師450名を対象に日本語版NCSと日本語版Six-Dimension Scale(6DS)(長友ら, 2001)を用いた調査(郵送法)を行い、日本語版NCSのCronbach's α 係数、日本語版NCSと日本語版6DSとのSpearman相関係数を求めた。さらに臨床看護師1130名を対象に、日本語版NCS、看護過程展開能力、クリティカルシンキングの態度や傾向、看護実践能力に資する経験、基本属性に加え、経験年数3年未満には臨床学習環境の認識、一般性セルフ・エフィカシー尺度(坂野ら, 1986)を含めた質問紙調査を実施した(郵送法)。本調査の経験年数3年以上の看護師のうち、実習指導経験者にはCLEDIへの回答を依頼した。分析は記述統計、検定、相関分析、多変量解析、共分散構造分析を行った。有意水準は5%とした。

(3) 臨床学習環境におけるメタ認知的活動に関するフォーカスグループインタビュー

研究の趣旨の説明を受けたうえで自由意思により参加した学生4名、教員4名、実習指導者4名を臨床学習環境のステークホルダーとし、半構成的グループインタビューを実施した。インタビューガイドは、Kolb(1984)が提唱した学習環境の模倣的、探究的、習熟的風土に基づき、看護学実習における状況認知、思考過程、看護実践に焦点をあてた質問を設定した。インタビューは、参加者の許可を得てビデオに録画し、ICレコーダーに録音した。Flick(1995)のテーマ的コード化の方法を参考にしながら分析を行った。個々の集団においてコード化を行い、構造図を作成し、集団間の類似性・相違性を検討した。

(4) 倫理的配慮

本研究は、大阪府立大学看護学部研究倫理委員会の承認を受けた。対象者には、研究目的と方法、研究成果の公表、研究協力の自由意思、プライバシーの保護、データの取扱いを説明した。尺度の使用(翻訳)許諾を得た。

4. 研究成果

(1) 学生、教員、実習指導者における臨床学習環境に関する調査

①学生における臨床学習環境、メタ認知、看護実践力、感情労働、クリティカルシンキングの態度や傾向の特性

大学生 208 名、専門学校生 317 名から有効回答を得た結果、CLEDI で測定した臨床学習環境の「感覚的 Clinical Learning Environment (CLE)」、「知覚的 CLE」、「象徴的 CLE」、「行動的 CLE」では、大学生、専門学校生の間で有意差はなかったが、「反省的 CLE」では専門学校生より大学生が有意に高いことが示され、大学生のほうが臨床学習環境の反省的側面を重視していることが示唆された。大学生は、人間の認知特性や課題に関するメタ認知的知識、クリティカルシンキングの「他者の立場の尊重」、「開かれた心」、「知的誠実さ」、「柔軟性」が専門学校生より高い傾向が示された。一方、専門学校生は、看護実践力の「実施する力」、感情労働の「表層適応」、「表出抑制」、「深層適応」、クリティカルシンキングの「知的好奇心」、「決断力」、「知的懐疑心」、「客観性」が大学生より高い傾向がみられた。

②学生における臨床学習環境、メタ認知、看護実践力の因果構造

学生の「臨床学習環境」、「メタ認知的知識」、「メタ認知的活動」、「看護実践力」を潜在変数とし、指標のパス係数に等値制約において「臨床学習環境」は「看護実践力」に影響を与える他に「メタ認知的知識」にも影響を与え、その結果として「メタ認知的活動」に寄与し、「メタ認知的活動」は「看護実践力」に影響を及ぼす共分散構造モデルを仮定し、大学生と専門学校生の多母集団分析を行った結果、適合度は $GFI=.902$ 、 $AGFI=.876$ 、 $RMSEA=.043$ であった。学生の「看護実践力」は「臨床学習環境」、「メタ認知的活動」の影響を受け、「メタ認知的活動」は「メタ認知的知識」に基づいて行われることが示された。

パラメーター間の差に対する検定統計量では、「臨床学習環境」から「メタ認知的知識」へのパス係数において集団間で有意差を認め、このパス係数の標準化推定値は大学生では.22、専門学校生では.42 であった。大学生と専門学校生の間では「臨床学習環境」から「メタ認知的知識」への影響に差があり、大学生は影響を受けにくい傾向がみられた。

③教員における臨床学習環境が学生のメタ認知の促進への支援に及ぼす影響

大学教員 145 名、専門学校教員 110 名から有効回答を得た。対象者の教員、看護職、実習指導の平均経験年数は、それぞれ大学教員では 7.6(SD6.2)、7.7(SD4.9)、8.8(SD6.7)、専門学校教員では 5.5(SD6.0)、12.0(SD5.1)、7.6(SD6.8)であった。教員の CLEDI 得点を学

生と比較すると、大学では「感覚的 CLE」、「象徴的 CLE」、「行動的 CLE」において学生より教員が有意に高かったが、専門学校では学生と教員の間に有意差はなかった。大学と専門学校の教員間では、すべての CLEDI 下位尺度において専門学校教員より大学教員が有意に高いことが示唆された。また大学教員は、課題に関するメタ認知的知識の促進への支援が専門学校教員より高い傾向が示された。

教員の「臨床学習環境」が「メタ認知的知識の促進への支援」に影響を与え、その結果として「メタ認知的活動の促進への支援」に影響を与える共分散構造モデルを設定し、それぞれの指標のパス係数に等値制約において大学教員と専門学校教員の多母集団分析を行った結果、適合度は $GFI=.904$ 、 $AGFI=.867$ 、 $RMSEA=.037$ であった。「臨床学習環境」から「メタ認知的知識の促進への支援」へのパス係数の標準化推定値は大学教員が.42、専門学校教員が.56 で、パラメーター間の差に対する検定統計量では有意差はなかったが、「メタ認知的知識の促進への支援」から「メタ認知的活動の促進への支援」へのパス係数は大学教員が.88、専門学校教員が.96 で、有意差が認められた。

教員の「臨床学習環境」が「メタ認知的知識の促進への支援」に影響を与え、さらに「メタ認知的活動の促進への支援」にも寄与することが明らかになり、臨床学習環境の充実が学生のメタ認知を促進する支援につながると推察された。

④実習指導者における臨床学習環境、看護実践力、学生のメタ認知の促進への支援の関係

有効回答が得られた実習指導者 148 名の看護職、実習指導の平均経験年数は、それぞれ 14.6(SD6.0)、5.4(SD5.1)であった。実習指導者の CLEDI 得点を学生と比較すると、「知覚的 CLE」と「行動的 CLE」では学生より有意に高いことが示された。教員と比較すると、「知覚的 CLE」では有意に実習指導者のほうが高かったが、「象徴的 CLE」と「反省的 CLE」では教員が有意に高かった。看護実践力を学生と比較すると、「実施する力」では学生より有意に高かったが、他の下位尺度では有意差はみられなかった。感情労働の「探索的理解」と「表出抑制」では学生より実習指導者が有意に高いことが示され、また「探索的理解」では、実習指導者、学生ともに看護実践力のすべての項目と相関があり、実習指導者が $r=.30\sim.54$ 、学生が $r=.27\sim.42$ であった。

実習指導者の「臨床学習環境」と「看護実践力」との間に相関を仮定し、「看護実践力」が「メタ認知の促進への支援」の規定因となる共分散構造モデルを設定し分析を行った結果、適合度は $GFI=.901$ 、 $AGFI=.863$ 、 $RMSEA=.051$ であった。「臨床学習環境」と「看護実践力」との相関は.61 であり、「看護

実践力」から「メタ認知の促進への支援」へのパス係数は.49であった。実習指導者の看護実践力は臨床学習環境と相互に関わり、学生に対するメタ認知の促進への支援に寄与することが推察された。

⑤看護学実習におけるより豊かな学びに結びつく臨床学習環境の要件

学生 197 名、教員 159 名、実習指導者 80 名が記述したデータを三者に分けてコード化し、コードを共通性と相違性によってカテゴリー化した。カテゴリーを【 】で示す。

学生、教員、実習指導者の記述から抽出されたカテゴリーのうち、三者に共通して【多くの看護ケアを体験できる環境】【看護ケアや役割の実際を学ぶことができる環境】【実習施設の受け入れ体制が整っている環境】【実習に関するハード面が充実している環境】【教育指導者としての資質を備えた者が学生指導に関わる環境】【実習指導に関わる者が余裕をもって指導ができる環境】の6つのカテゴリーが抽出され、これらが三者ともより豊かな学びに結びつく臨床学習環境の要件として捉えていることが示唆された。

これらのカテゴリー以外に、教員と実習指導者の記述からは【学習目的を達成できる実習場の環境】【実習内容の工夫がされている環境】【臨床と教育機関との関係が良好な環境】の3つのカテゴリーが抽出され、臨床教育の観点のみられた。また学生と教員の記述からは【実習に携わる者同士の人間関係が良好な環境】のカテゴリーが表れ、対人関係を重視していることが捉えられた。一方、学生と実習指導者の記述からは【効果的な学習につながる実習プログラムが組み立てられている環境】が抽出され、教育プログラムに対するニーズが見いだされた。

(2) ナースコンピテンスと臨床学習環境に関する調査

①日本語版 NCS の作成

有効回答が得られた8名のエキスパートの可能なペアの組合せ(28組)において、percent agreement値が.80以上の基準値を下回った2組の両方に含まれる1名の評価を除外し、7名を対象にCVIを算出した結果、日本語版 NCS の CVI は平均 0.94 であった。CVI が.80 以上は68項目で、.80 未満の5項目はエキスパートの意見をもとに修正を行った。日本語版 NCS は、評者間一致率の受容可能なレベルをもつエキスパートによる内容関連妥当性を検討することができた。

有効回答を得た 214 名を対象に算出した日本語版 NCS の Cronbach's α 係数は、「援助役割」.81、「教育/コーチング」.92、「診断機能」.88、「状況管理」.89、「治療的介入」.91、「質の保証」.79、「仕事役割」.93 であり、原版に近い信頼性係数が得られ、十分な内的整合性が確認された。また、日本語版 NCS と日

本語版 6DS の総得点間の相関は.75、下位尺度間では.35~.67 であり、一定の併存的妥当性を備えていることが示された。

②ナースコンピテンスの特性と関連要因

有効回答が得られた臨床看護師 388 名の平均経験年数は 6.7(SD5.4)であった。日本語版 NCS の得点は「状況管理」がもっとも高く、「質の保証」は低いという傾向がみられ、経験年数を4分位点で3年以下/4-5年/6-9年/10年以上に区切り、NCSの領域別に比較したところ、「質の保障」では、3年以下、4-5年、6-9年群の各々と10年以上群とに有意差を認めた。「状況管理」は経験を経ることで成長していくが、ケアの質の保証は経験年数10年まで成長しづらいことが示唆された。

看護実践の問題解決や臨床判断に、また看護実践を批判的に反省する過程においてクリティカルシンキングは必要不可欠である。日本語版 NCS の得点を従属変数とし、クリティカルシンキングの態度や傾向 30 項目の得点を独立変数とする重回帰分析を行った結果、クリティカルシンキングの「客観性」や「追求心」に関する要素がナースコンピテンスに影響を与えることが明らかになった(調整済み $R^2=.32$)。

また看護過程は患者一人ひとりにあった個別の看護ケアを提供するために必要不可欠な問題解決プロセスであり、看護師には高い看護過程展開能力が求められる。ナースコンピテンスと看護過程展開能力の関係について、臨床看護師 370 名を対象に分析を行った結果、日本語版 NCS と看護過程展開能力とは尺度全体で $r_s=.50$ 、下位すべての尺度間で有意な相関を認め、なかでも日本語版 NCS の「援助役割」、「教育/コーチング」、「診断機能」と看護過程展開能力の全下位尺度では、 $r_s=.40\sim.46$ の中程度の相関を認めた。

人間のコンピテンスの生成的システムにおいて効力は重要な要因として働くことが示唆されている(Bandura, 1997)。新人期の看護師(経験年数3年未満)98名を対象に日本語版 NCS と一般性セルフ・エフィカシー尺度(General Self-Efficacy Scale: GSES)との関係を分析した結果、GSES の「能力の社会的位置づけ」と日本語版 NCS の「教育/コーチング」($r=.24$)、「援助役割」($r=.23$)、「質の保証」($r=.20$)との間、GSES の「行動の積極性」と日本語版 NCS の「仕事役割」($r=.21$)との間においてそれぞれ有意な相関を認めた。GSES が日本語版 NCS に影響を及ぼす共分散構造モデルを仮定し分析を行った結果、適合度は $GFI=.938$ 、 $AGFI=.878$ 、 $RMSEA=.049$ であった。GSES の「能力の社会的位置づけ」から日本語版 NCS へのパス係数が 0.21 で有意であったが、他の GSES 下位尺度からのパス係数は有意ではなかった。GSES の「能力の社会的位置づけ」は社会的な場面において

自己の遂行を評価できる傾向を測定しており、新人期の看護師のコンピテンスへ影響を及ぼすことが示唆された。

以上の結果より、ナースコンピテンスに関連する特性が示され、臨床教育に有用な基礎的資料を得ることができた。

③ナースコンピテンスと臨床学習環境の関係
実習指導経験者 160 名を対象とした。看護職、実習指導の平均経験年数はそれぞれ 10.8(SD5.8)、4.1(SD3.9)であった。CLEDI と日本語版 NCS の各領域の相関は、「援助役割」($r=.29$)、「教育/コーチング」($r=.34$)、「診断機能」($r=.16$)、「状況管理」($r=.20$)、「治療的介入」($r=.27$)、「質の保証」($r=.22$)、「仕事役割」($r=.33$)であった。CLEDI 得点を従属変数、日本語版 NCS の各領域の得点を独立変数とする重回帰分析を行った結果、CLEDI の影響要因として日本語版 NCS の「教育/コーチング」($\beta=.21$)、「仕事役割」($\beta=.20$)が確認された (調整済み $R^2=.13$)。臨床学習環境の質を高めるためには、実習指導者が教育的コミュニケーションのスキル、組織的調整のスキルを高める必要があることが示唆された。

(3) 臨床学習環境におけるメタ認知的活動に関するフォーカスグループインタビュー

インタビューデータは学生、教員、実習指導者それぞれの集団に見られる物事や過程に対する見方や経験の多様性に焦点をあて分析した。テーマを《 》で示す。

状況認知について、学生からは《自分で行うケアに対する躊躇と萎縮》《他校との実習内容に関する相違への戸惑い》《実習施設が変わるに伴う適応困難感》《スタッフに声をかけるタイミングの迷い》《教員や指導者の働きかけによる学習活動の促進》《教員や指導者との交流による相互理解》、教員からは《管理者・指導者・スタッフへの接近》《病棟の特徴の理解や事前準備のための時間的制約》《臨床との連携を重視した取り組み》《学生の臨床環境への適応に対する支援》《学生と指導者の関係に対する介入》、実習指導者からは《教員の力量とその影響に対するアセスメント》《患者とスタッフに配慮した実習への協力》《学生の視点からみた指導者観の気づき》《スタッフと学生、教員の関係に対する介入》《スタッフの学生に対する認識の不一致と不安の把握》《学生への接近と信頼関係の形成》が抽出された。3 者に共通して、学生の学習活動にかかわる人たちとの関係性を認識していた。教員と実習指導者は学生、スタッフ、患者を含む相互関係が築けるように働きかけていた。学生は教員や指導者との関わりが学習活動を支援する一方で、現場の状況への戸惑いを感じていた。

思考過程について、学生からは《知識不足による分析的思考の連鎖不良》《教員からの指導による気づきと課題の必要性の理解》、教員

からは《記録を活用した学生への継続的な指導による思考の促進》《学生の看護過程展開におけるスタッフの力の活用》《患者選定や学生指導に対する教員と指導者間の調整》《学生の臨床学習の動機づけの重視》《学生の論理的思考や看護の幅の理解を促進する関わりの難しさ》《スタッフや患者を取り巻く人たちから提供される患者情報の活用》、実習指導者からは《多様な側面からの学生の患者理解への援助》《学生への基礎的知識の要求レベルに対する迷い》《学生の教育背景の違いによる臨床側の混乱》《学生の看護過程展開の把握やタイムリーな指導ができない葛藤》《患者・学生・スタッフへの影響を考慮した実習体制の限界と改善の必要性の認識》《患者・スタッフにポジティブな影響を与える学生の存在の認知》《机上の学習と現実の患者を繋げる関わり》《看護の楽しさ、学習への動機づけができる関わり》が抽出された。3 者に共通して、学生の学習活動における動機づけを重視していた。学生は情報を関連づけて思考することに困難感を抱いていたが、教員の指導が気づきを促していた。教員は看護過程展開において臨床との調整を図り、実習指導者は実際の現象から患者理解ができるように学生を支援していた。

看護実践については、学生からは《学生という立場でのケアに対する患者の反応への喜びとジレンマ》《患者とのコミュニケーション時の迷いと患者に与える影響への不安》《ストレスや問題解決に向けた対処》《教員や指導者からのフィードバックにもとづく自己への省察と学び》、教員からは《学生への支援体制に向けた主体的な取り組み》《学生の個性(特性・背景)に合わせた実習内容の検討》《学生のケア実施と患者の安楽・安全性との間のジレンマ》《学生からのメッセージの読み取り》、実習指導者からは《学生の患者理解を促進する環境の提供》《学生の能力を引き出す環境の調整》《学生間での患者ケアに関する学びの共有への配慮》が抽出された。3 者に共通して、学生の主体的な学習活動の促進を要としていた。学生が行うケアに対し、学生と教員が不安やジレンマを抱えている一方、実習指導者はケアの学びの共有を図り、教員は学生からのメッセージの読み取りを行っていた。

(4) 臨床学習環境のデザインと臨床教育に資する形成的評価のシステムの指針

本研究によって、臨床学習環境のステークホルダーのメタ認知は、教育・学習活動の核となり、臨床学習環境を方向づける模範的風土、探索的風土、習熟的風土を実践的なものに行っていることが示唆された。また、医療・看護システム、教育・研究システム、情報・管理システム、実践・協働システムと連関するナースコンピテンスや看護実践力と臨床学習環境の関係性が確認された。これらの成果をも

とに、臨床学習環境のデザインに含まれる概念間の関係を示すモデルを構成した(図 1)。

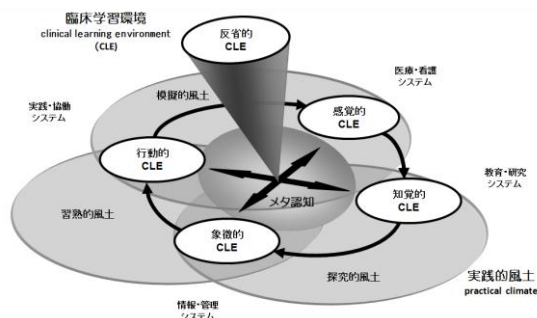


図 1 概念間関係の仮説モデル

臨床教育に資する形成的評価システムの指針として、以下の 3 点を示すことができた。

- ①臨床学習環境の評価ワークショップ
立場の異なる臨床学習環境のステークホルダーを参加者とするワークショップにより、臨床の教育・学習の課題や改善について協議し、その結果を参加者の実践に活用する。
- ②メタ認知活動を促すルーブリックの活用
臨床学習環境における状況認知、思考過程、看護実践に関するモニタリングとコントロールの視点を含めたルーブリックを作成する。
- ③臨床学習のポートフォリオ評価
学生自身の参加による評価の過程としてポートフォリオを作成することを推奨する。

5. 主な発表論文等

[学会発表] (計 9 件)

- ① 細田泰子、片山由加里、土肥美子、実習指導者の看護実践力、臨床学習環境と学生に対するメタ認知の促進への支援の関係、第 21 回日本医学看護学教育学会学術学会、2011 年 3 月 6 日、島根大学医学部看護学科棟 (島根県)
- ② Yasuko Hosoda、Akiko Nakaoka、Mitsuyo Nakahashi、Yukari Katayama、Effects of clinical instructors' competence in nursing practice on the clinical learning environment in nursing practicums、14th East Asian Forum of Nursing scholars、2011年2月12日、Seoul Olympic parktel (ソウル、韓国)
- ③ 土肥美子、細田泰子、片山由加里、実習における看護大学生のメタ認知を促進する支援とその影響要因、第30回日本看護科学学会学術集会、2010年12月4日、札幌市産業振興センター (北海道)
- ④ 細田泰子、片山由加里、土肥美子、看護学生における臨床学習環境、メタ認知、看護実践力の関係—大学生および専門学校生の特性—、第30回日本看護科学学会学術集会、2010年12月3日、札幌市産業振興センター (北海道)
- ⑤ 中岡亜希子、細田泰子、新瀬朋未、中橋苗代、片山由加里、臨床看護師の看護実践能力とクリティカルシンキングの関連性、第

- 30回日本看護科学学会学術集会、2010年12月3日、札幌市産業振興センター (北海道)
- ⑥ 細田泰子、中岡亜希子、新瀬朋未、日本語版Nurse Competence Scale (NCS)の信頼性と妥当性の検討、日本看護学教育学会第20回学術集会、2010年8月1日、大阪国際会議場 (大阪府)
- ⑦ 中橋苗代、細田泰子、中岡亜希子、新瀬朋未、臨床看護師の看護過程展開能力とその関連要因、日本看護学教育学会第20回学術集会、2010年7月31日、大阪国際会議場 (大阪府)
- ⑧ 新瀬朋未、細田泰子、中岡亜希子、片山由加里、新人期の看護師の自己効力とコンピテンスの関連、第29回日本看護科学学会学術集会、2009年11月27日、幕張メッセ (千葉県)
- ⑨ Yasuko Hosoda、Tomomi Shinse、Akiko Nakaoka、Yukari Katayama、Content validity of the Japanese version of the Nurse Competence Scale、The 12th East Asian Forum of Nursing Scholars、2009年3月13日、St. Luke's College of Nursing (東京、日本)

[図書] (計 1 件)

- ① 松木光子監修、宮地緑、星和美編集、細田泰子、他、金芳堂、看護学臨地実習ハンドブック—基本的考え方とすすめ方—改訂 4 版、2010 年、38-42

[その他]

ホームページ等

<http://www.nursing.osakafu-u.ac.jp/~hosoday/gaiyou.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細田 泰子 (HOSODA YASUKO)
大阪府立大学・看護学部・准教授
研究者番号：00259194

(2) 研究分担者

片山 由加里 (KATAYAMA YUKARI)
京都橘大学・看護学部・講師
研究者番号：10290222
H20→H22：連携研究者

中岡 亜希子 (NAKAOKA AKIKO)
千里金蘭大学・看護学部・助教
研究者番号：60353041

中橋 苗代 (NAKASHI MITSUYO)
京都橘大学・看護学部・助教
研究者番号：60454477

(3) 連携研究者

新瀬 朋未 (SHINSE TOMOMI)
大阪府立大学・看護学部・助教
研究者番号：10448756